

事業名	諸費	財務コード (事業)	129001
-----	----	---------------	--------

細事業名	住みよい県土建設週間知事表彰等実施事業
------	---------------------

担当部課室	県土整備 部 県土整備総務 課 総務経理 担当 (内線)	7056
-------	------------------------------	------

事業の概要

実施期間	始期 S49 年度 ~ 終期 年度		
実施主体	県(直営)		
事業の目的	誰(何)を対象に 県民 建設業者、建設業従業員	その対象をどのような状態にして 県土に対する愛護意識や社会資本整備の重要性を認識している。 技術力の向上に取り組んでいる。	結果、何に結びつけるのか 公共事業の品質の確保及び県民の県土整備への協力。
	事業の内容 主に 24年度 県土建設の意義と重要性を広く県民に訴え、理解を得るために住みよい県土建設週間(9月)を定め、その行事として次の表彰を行う。 (1)知事表彰 県土の愛護に尽力した者表彰 ・対象 長年道路河川等の美化清掃に努めた団体又は個人 住みよい県土建設功労者表彰 ・対象 県工事施工業者のうち県土建設への貢献が顕著で他の模範となる者 住みよい県土建設功労従業員表彰 ・対象 現場代理人、主任技術者等現場関係従業員として、貢献が顕著で他の模範となる者 用地交渉協力者表彰 ・対象 県執行の工事に係る用地取得等に尽力し、当該工事の促進に功績のあった者		
根拠法令等	住みよい県土建設週間実施要綱		

事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

事業の実施状況と目標の実現度	23年度		24年度		25年度	26年度	事業目標の考え方
	実績値	目標値	実績値	目標値	見込値	目標値	
活動指標 住みよい県土建設功労者表彰に係る推薦数	89	80	76		80	80	活動指標 目標設定の考え方 住みよい県土建設功労者の表彰数の基準を40としていることから、推薦数(目標値)を表彰基準数の2倍とした データの出典等
	活動指標達成率(実績値/目標値)	95.0 %					
成果指標 住みよい県土建設功労表彰者の最小評点	83.1	82.5	83.5		82.5	82.5	成果指標 目標設定の考え方 公共事業の品質の確保を目的としていることから、表彰対象者の工事成績の状況を成果指標として捉え、H21、22、23の平均を目標値として設定 データの出典等 平成23年度住みよい県土建設功労者選考資料
	成果指標達成率(実績値/目標値)	101.2 %					
決算額、予算額 (千円)	86		85		110	114	成果指標によらない成果 功労者表彰・従業員表彰は、優秀な技術力を持つ業者・従業員の裏付けとなり、業界・顧客(県民)からの信用享受、さらに建設業全体の技術力向上に寄与している。 「県土の愛護に尽力した者表彰」及び「用地交渉省等協力者表彰」は、県民の道路清掃活動の取り組みや公共事業用地取得協力者を顕彰することにより、県土整備に対する県民の理解促進に寄与している。
うち一財額	86		85		110	114	
所要時間(直接分)	210 時間		207 時間		208 時間	208 時間	
所要時間(間接分)	52 時間		51 時間		55 時間	55 時間	
所要時間計	262 時間		258 時間		263 時間	263 時間	
人件費コスト単位:千円(@2,050円×所要時間)	537		529		539	539	

これまでの事業の見直し・改善状況

「公共工事の品質確保の促進に関する法律」の施行や総合評価落札制度の趣旨を踏まえ、平成18年度から、品質管理、安全対策、技術力、環境対策、地域貢献等、特に優れた取り組みや先進的な取り組みも観点に加えて表彰することとした。従業員についても、同様の趣旨の見直しを行った。
また、表彰数について、従来、建設業者50社、従業員20名程度であったものを、40社、15名に削減し、より優れた業者等を顕彰することにより、建設業者の一層の技術力の促進を図った。

活動量と成果の判断(平成24年度の業績評価)

(1) 事業は予定された活動量を上げているか。(「活動指標の達成率」等から、事業の活動量を判断)

数値判定 H24年度 活動指標 達成率	活動量に係る 一次評価	活動量に係る一次評価の考え方 数値判定と一次評価とが異なる場合等に記入すること
b	b	

a: 予定を超えた活動量がある(120%以上)。 b: 予定どおりの活動量がある(80%以上120%未満)。 c: 予定したほど活動量がない(40%以上80%未満)。 d: 予定した活動量に著しく足りない(40%未満)。

(2) 事業は意図した成果を上げているか。(「成果指標の達成率」、「成果指標によらない成果」から事業の成果を判断)

数値判定 H24年度 成果指標 達成率	成果に係る 一次評価	成果に係る一次評価の考え方 必ず記入すること
b	b	平成21年度から3か年の住みよい県土建設功労表彰者の最小評点の平均値は82.5点である。 一方、平成24年度は83.5点と、工事成績の最小値が上がっている。これは、工事全体のレベルが上がり、品質が向上していると推測できる。 また、表彰式がマスコミに報道されていることから、受賞者本人をはじめ、県民の「県土整備」への関心が喚起され、公共事業への協力につながっていると考えられる。 以上のことから、意図した成果はほぼ上げている。

a: 意図した成果を十分に上げている(120%以上)。 b: 意図した成果はほぼ上げている(80%以上120%未満)。 c: 意図した成果は十分ではないが、対象や方法の改善により成果の向上が見込める(40%以上80%未満)。 d: 意図した成果が十分でなく、成果を上げる方法も見あたらない(40%未満)。

見直しの必要性(平成26年度に向けた改善等の考え方)

一次評価(担当部評価結果)		
見直しの必要性	説 明	以外の 判断項目
無		

・「以外の判断項目」の欄
必要性(a.目的の達成 b.新たな課題への対応 c.対象の変化 d.ニーズの変化 e.法律・制度の改正) 官or民(f.民間等実施) 官の役割分担
(g.市町村等へ移管) 効率性(h.外部委託 i.経費節減 j.類似事業と統合・連携 k.所要時間の縮減 l.プロセスの改善) m.その他

二次評価(担当部局再評価結果) 行政評価アドバイザー会議(外部評価)での指摘事項を踏まえた担当部局による再評価

見直しの必要性	説 明	以外の 判断項目

・「以外の判断項目」の欄は、上記と同様とする。

見直しの方向(平成26年度当初予算等での対応状況)

見直しの方向	具体的な実施計画等
現行どおり	

・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること。なお、見直しがない場合は、「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること。